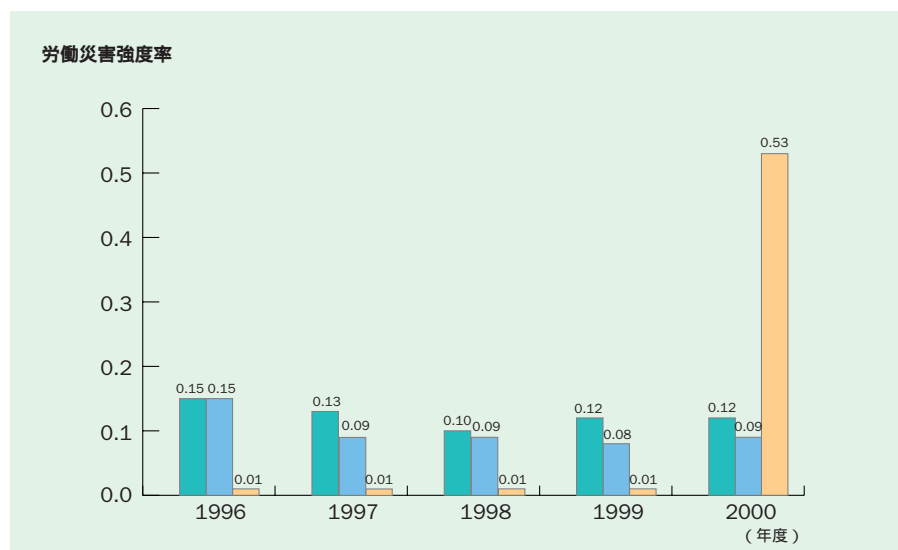
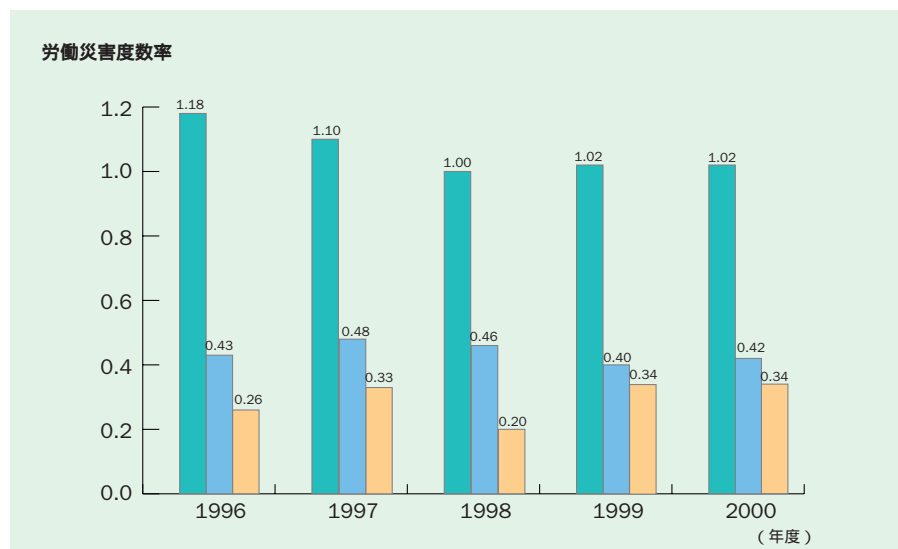


労働安全は生産活動の原点であり、前提条件であると捉えています。日頃より「安全最優先」の方針の下、各事業場はもとより、全社的に従業員の労働安全の確保に努めてきましたが、残念ながら2000年度は死亡事故を発生させてしまいました。事故原因の究

明を図りこのような不幸な事故を絶対に再発させないよう万全の体制をとるとともに、この事故を教訓にして全社的にゼロベースからの安全施策の見直しを図り、ゼロ災害達成に向けてこれまで以上の安全活動を推進していきます。



*1 安全の指標(厚生労働省労働基準局): 産業別災害率より
 *2 (社)日本化学工業協会労働安全衛生実態調査より

$$\text{労働災害度数率} = \frac{\text{休業災害被災者数}}{\text{延労働時間数(100万時間当たり)}}$$

$$\text{労働災害強度率} = \frac{\text{労働損失日数}}{\text{延労働時間数(1,000時間当たり)}}$$

クレーム

2000年度は足柄工場で臭気クレーム2件、小田原工場で騒音クレーム2件、宮台技術開発センターで騒音クレーム1件、朝霞研究所で騒音クレーム1件の計6件のクレームを受けました。いずれの

クレームに対しても、すみやかに対応し住民の方々のご理解を得ることができました。今後は先手管理を徹底し再発を防止していきます。また、環境に関わる違反・訴訟はありませんでした。